

ふくい

DX

デジタル・トランスフォーメーション

セミナー

みずから変える
みんなで変える
ふくいを変える



2024.3.21(木) 13:00▶16:30

@織協ビル／リアルタイム配信

地方発のDX推進最先端を目指す福井県の取組み、
現在地、そしてこれから

第1部

①福井県DXの取組みについて

②基調講演・パネルディスカッション

「ウェルビーイング×DXでつくる福井の未来」

第2部 未来技術活用プロジェクト 成果発表会

慶應義塾大学 医学部
医療政策・管理学教室 教授
宮田 裕章 氏



福井県副知事
鷲頭 美央

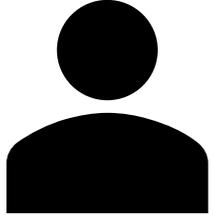


福井県DX推進監(CDO)
米倉 広毅

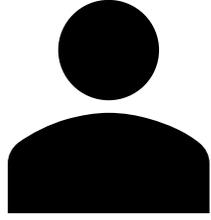


1 データからわかる福井県のウェルビーイング ～統計指標や県民アンケート結果から見る福井県の特徴～

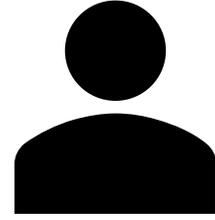
テーマ1 登壇者



福井県副知事
鷺頭 美央



慶應義塾大学医学部
医療政策・管理学教室 教授
宮田 裕章氏



(フアシリテーター)
福井県DX推進監
米倉 広毅

統計指標から見る幸福度

○「教育」「仕事」「生活」「健康」の各分野が充実。80の統計指標の総合評価で5回連続の幸福度日本一

順位	2014年版 60指標	順位	2016年版 65指標	順位	2018年版 70指標	順位	2020年版 75指標	順位	2022年版 80指標
1位	福井県								
2位	東京都	2位	東京都	2位	東京都	2位	富山県	2位	石川県
3位	長野県	3位	富山県	3位	長野県	3位	東京都	3位	東京都

しあわせ

のもと

■ 「しごと」ができるしあわせ

- 働く女性の割合 2位
- 高齢者有業率 4位
- 正規雇用者比率 5位

■ 「わ」(つながり)に支えられているしあわせ

- 一人暮らし高齢者率の低さ 2位
- 勤労者ボランティア活動比率 5位
- 地縁団体数(人口当たり) 8位

■ 「あそぶ」場所が近くにあるしあわせ

- 恐竜博物館【世界三大】
- 常設映画館数(人口当たり) 7位
- スポーツの活動時間 7位

■ 「せいかつ」が充実しているしあわせ

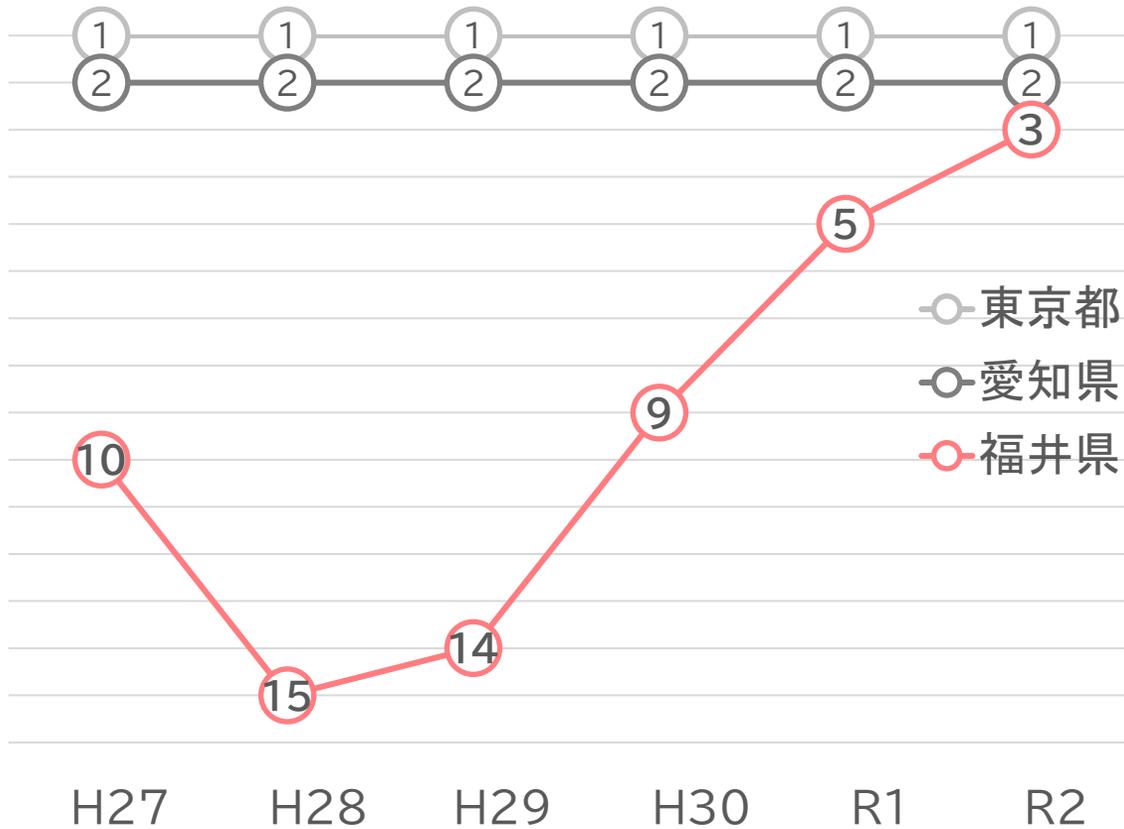
- 待機児童率の低さ 1位
- 社会教育費(人口当たり) 3位
- 持ち家比率 6位

2

統計指標から見る経済的豊かさ

○1人あたり県民所得は、東京都、愛知県に次ぐ3位まで上昇。伸び率では東京都、愛知県を大きく上回る

1人あたり県民所得の順位



	金額(R2)	伸び率(5年間)
東京都	5,214千円(1位)	-10.7%(46位)
愛知県	3,482千円(2位)	-12.8%(47位)
福井県	3,182千円(3位)	2.7%(5位)

安定した雇用と勤勉な県民性が豊かさの基盤

北陸新幹線県内開業がさらなる飛躍の契機に

3

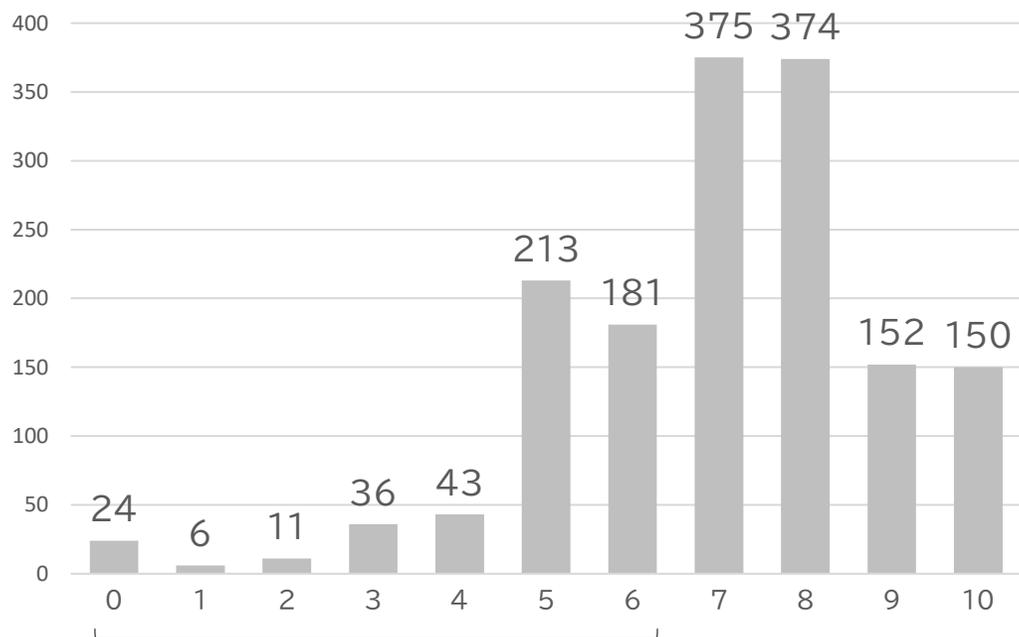
県民アンケートから見る幸せ実感

○県民のウェルビーイング(幸せ実感)は、平均7点

→ 客観的幸福度・経済的豊かさを基盤に、主観的な幸福感も高い

問 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。(未記入・無効等を除外)

点数分布



7点未満 約3割

平均点数

現在 7.0

参考: 全国 6.5
well-being全国調査(R5デジタル庁)

4

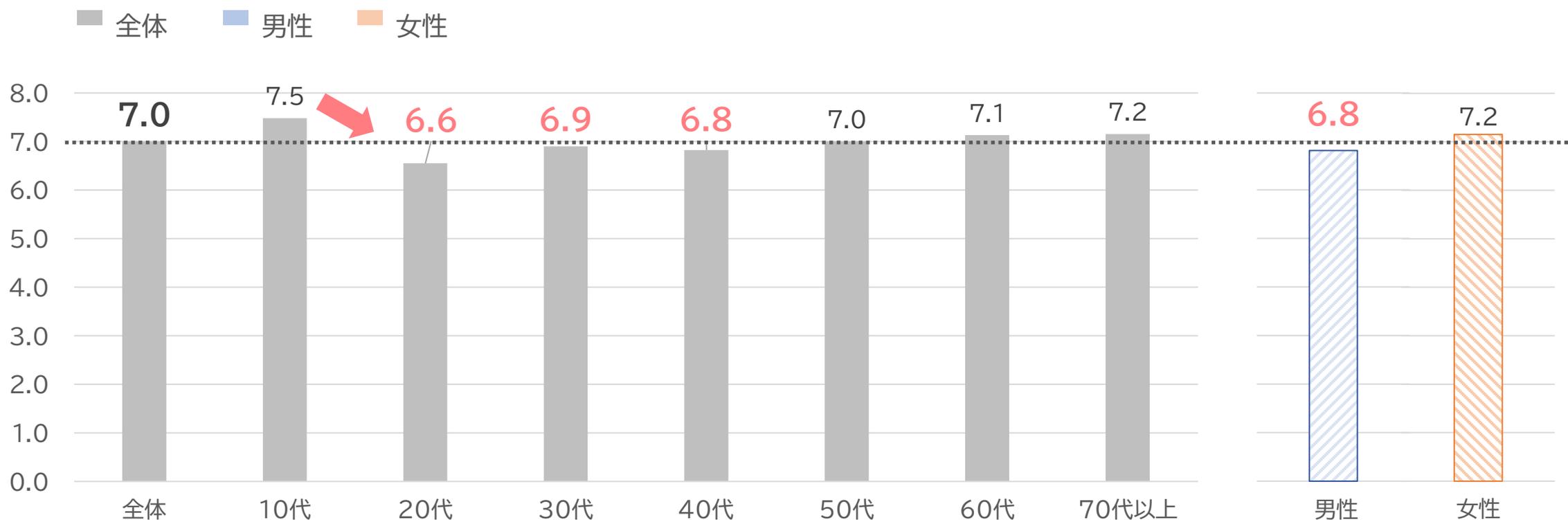
県民アンケートから見る幸せ実感

○年代別では、20代に落ち込み、20～40代の子育て・働き世代で低い傾向(7点未満)

→ 幸せ実感の視点からも、若者・子育て世代の応援、働き方改革の示唆

○性別では、男性が低い傾向

問 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。(未記入・無効等を除外)

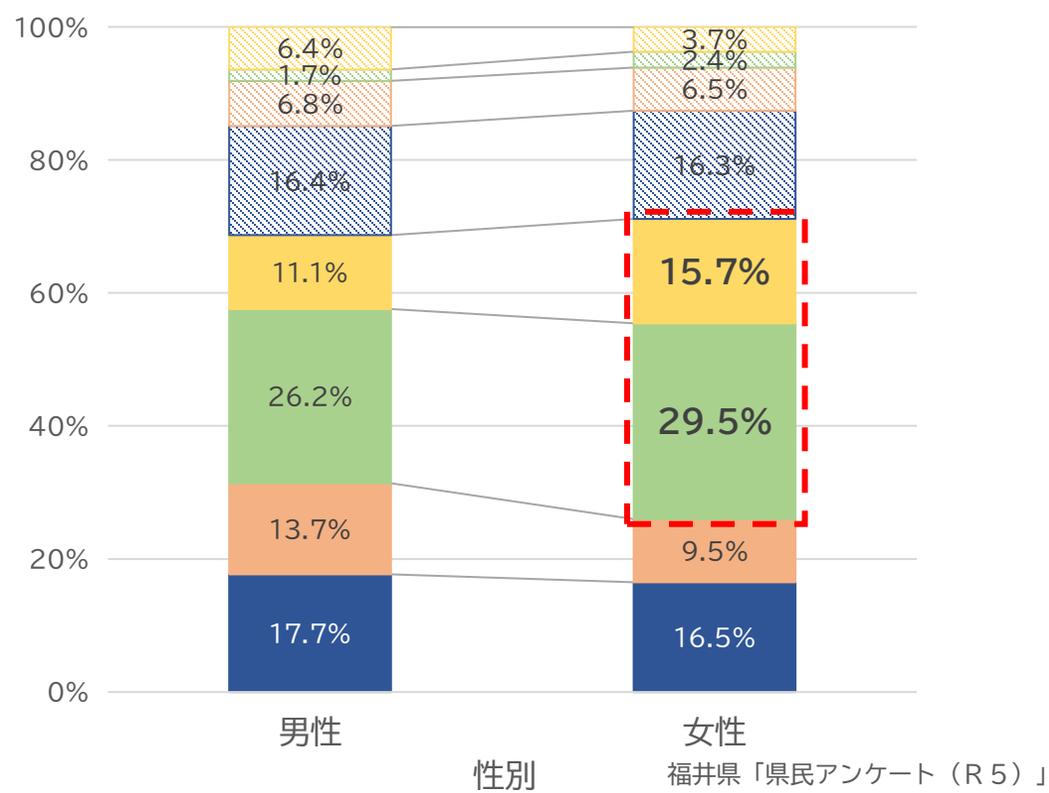
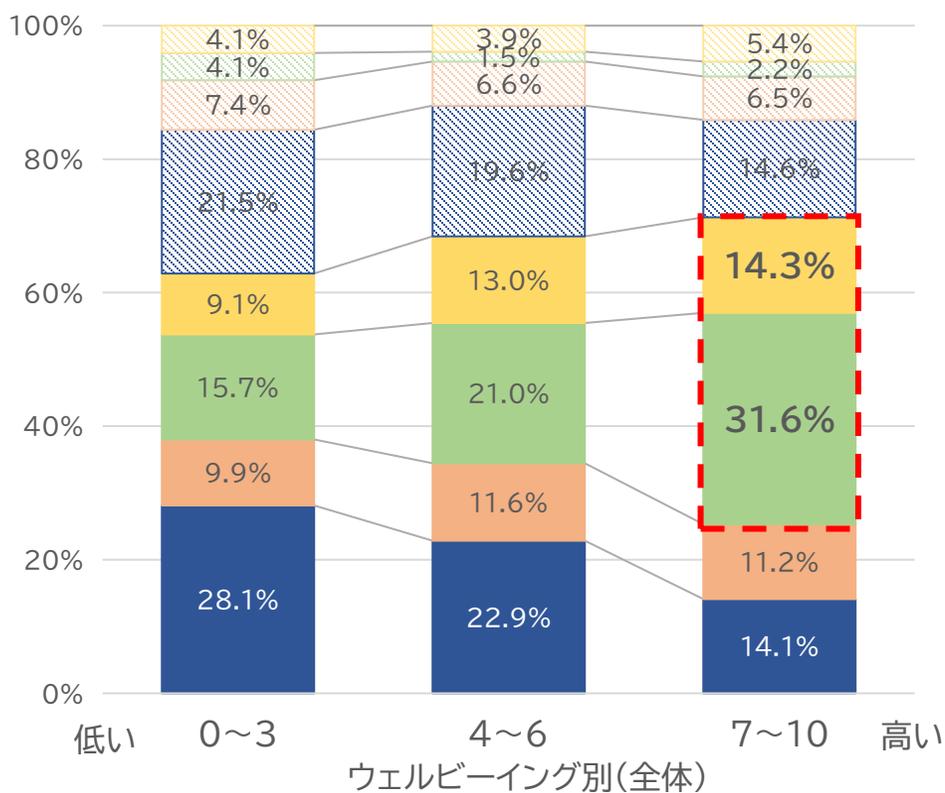


5 ウェルビーイング×生活で大切にしたいこと

○ウェルビーイング(幸せ実感)が高い人は、家族との触れ合いや、友人などとの交流の回答割合が高い
 → 人と人とのつながりから新たな楽しさ・幸せを重ねていく、福井らしいウェルビーイングの方向性

問 あなたが日々の生活の中で大切にしたいと思っていることはどのようなことですか。最も当てはまるものを2つ選んで○をつけてください。

- 自分の好きなように生活すること
- 趣味やスポーツ等の余暇時間
- 家族との触れ合い
- 友人などの気の合う仲間との交流
- ▨ 経済的な豊かさ
- ▨ 仕事や学業
- ▨ 学習活動により自分の知見を広げること
- ▨ 地域や社会のために貢献すること



6 ウェルビーイング向上に向けた今後の展開

○ 子育てサポート

- ・日本一幸福な子育て県「**ふく育県**」の拡大
 - 「ゆりかごから巣立ちまで」切れ目のない応援
 - 第2子以降の保育料・高等学校授業料の無償化
 - 日本一の男性育休支援(1社あたり最大602万円) など
 - 「地域全体」で若い世代を応援

産後ケア
伴走型相談支援



ふく育さん



保育士確保



○ 共育て・共働きの社会づくり

- ・「**共家事(ともかじ)**」の推進
- ・**女性活躍推進企業**の支援や女性リーダー育成
- ・ウェルビーイング経営を学ぶ塾の開催 等



○ 若者チャレンジ応援

- ・若者同士のつながりを生む
イベント開催や**若者チャレンジ相談**



○ 「自信と誇りのふくい」の実現

- ・福井県ブランド戦略に基づき、**「ふくい最高プロジェクト」**など、県民の地域に対する自信と誇りの醸成を図る



人と人とのつながりから新たな楽しさがあふれる、福井らしいウェルビーイングを実現するため、安心できる**“居場所”**と活躍できる**“舞台”**を広げていく

7 デジタルの力で地域課題解決、QoL向上に挑戦

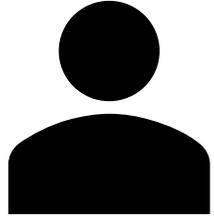
はぴコインの利用拡大中(県民15万人)
ウェルビーイングをデジタルで支える仕組みを実現



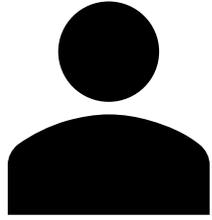
データ・連携・共同化により、Data for Society/Policyを実践

2 池田町での健康ポイント実証事業で 見えてきたこと

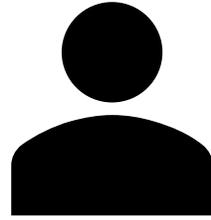
テーマ2 登壇者



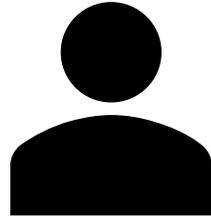
福井県
鷺頭 副知事



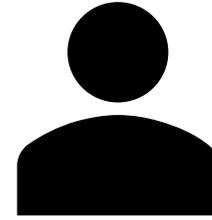
慶應義塾大学医学部
医療政策・管理学教室
宮田 教授



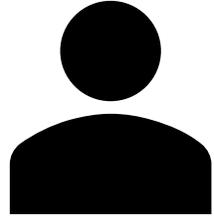
慶應義塾大学医学部
医療政策・管理学教室
内堀 研究員



池田町老人クラブ
堀口 会長



池田町保健福祉課
富田 保健師



(ファシリテーター)
福井県DX推進監
米倉 広毅

8

健康ポイント実証事業の概要

- 8月から、ウォーキングアプリ(NTTドコモの健康マイレージ)の利用を開始
- 11月から、歩数状況に応じ健康ポイントを付与。同時に、歩数や健康感、幸せ実感等を分析
- 参加者数446人(町人口の2割)。総歩数は地球約半周分(284,243,967歩)



【実証事業の流れ】

- 6月 プレイバントの実施(走っちゃだめよ！歩こう運動会)
- 8月～3月 ウォーキングアプリの利用
- 11月～2月 歩数に応じて健康ポイント付与**
(10月、12月、2月のそれぞれ下旬にアンケートを実施)

※健康ポイント(1日あたり)1か月最大2,250p

3,000～3,499歩	7p	5,500～5,999歩	45p
3,500～3,999歩	15p	6,000～6,499歩	52p
4,000～4,499歩	22p	6,500～6,999歩	60p
4,500～4,999歩	30p	7,000～7,499歩	67p
5,000～5,499歩	37p	7,500歩～	75p

ウォーキング配信



アプリでウォーキングコースを配信することで、コースの認知が高まり多くの人々が歩くようになり、ウォーキング事業の効果を高める。

写真投稿



自分が歩いた風景をアプリ内で投稿できる。他の投稿者の写真を見て、ウォーキングスポットの発見ができる。

基本機能 (ウォーキング)



ランキング



歩くモチベーションの向上に繋がるよう、自分と平均歩数が近い人たちで競い合える「リーグ歩数ランキング」を採用。
表彰式を行い継続利用を促す施策も可能。

グラフ・達成カレンダー

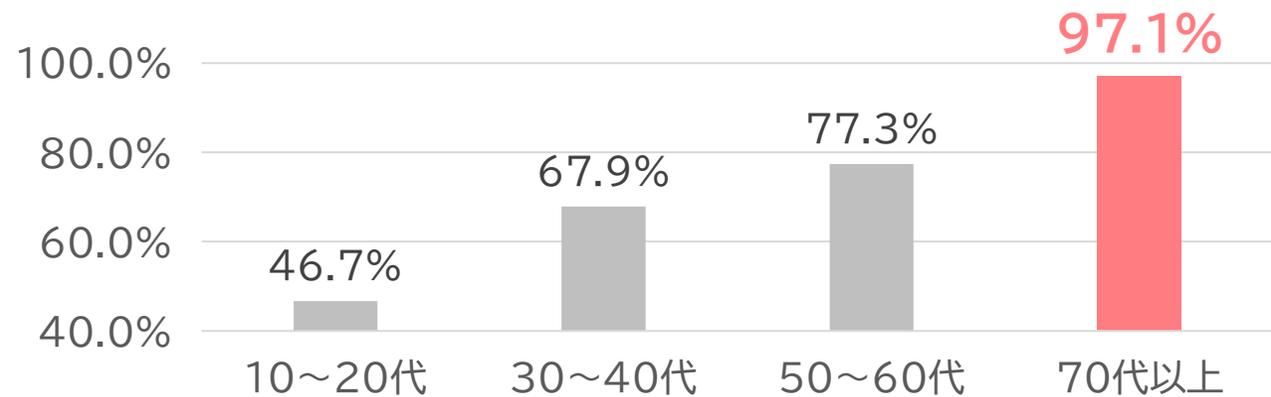


歩数や消費カロリーをグラフで表示。達成状況を一目で確認できる達成カレンダーで管理が簡単に。

実証開始時の状況(10月下旬)

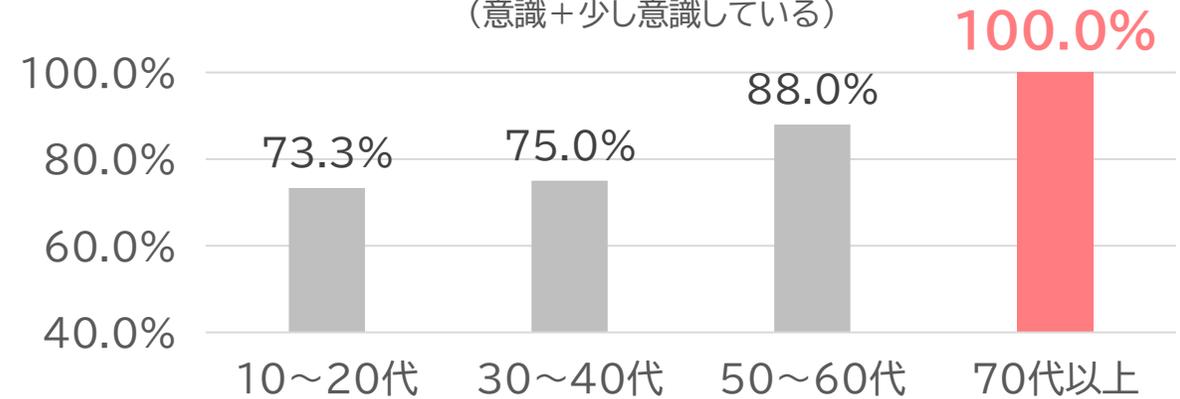
○70代以上のほとんどが町の健康づくりに参加。歩く意識が高く、健康感やウェルビーイングも高い。
 → 働き世代(30~60代)にも参加いただき、町全体の健康感やウェルビーイングの底上げを狙う

脳べるプロジェクトの取組みを実施している人の割合



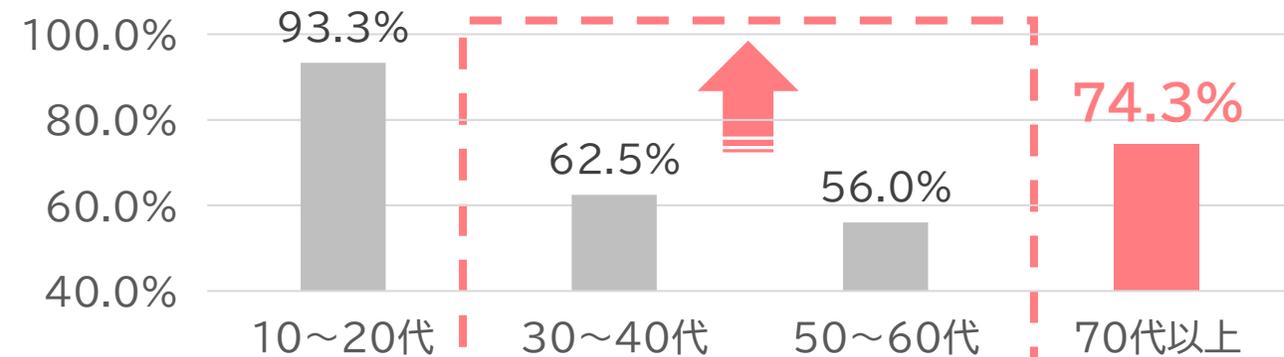
歩くことを意識している人の割合

(意識+少し意識している)

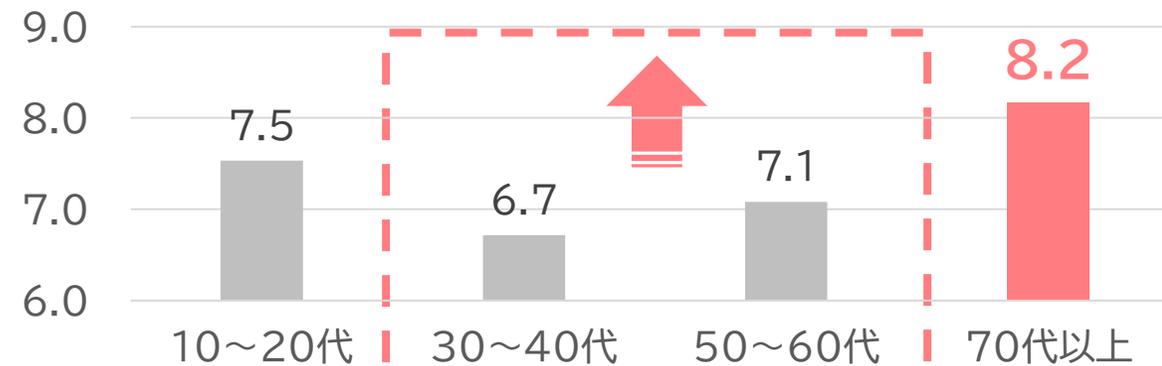


健康感がよい人の割合

(よい+まあよい)



ウェルビーイング(幸せ実感)の平均点数



11 町民の参加促進にむけた工夫

- 働き世代などの関心、参加を引き出すため、目標達成状況見える化やゲーム性(他者との比較)を意識
- 歩行中に撮影した写真をグループで共有し、参加者間で楽しめる工夫
 - モチベーションの維持・向上、コミュニティ形成を図るきっかけを提供
- 高齢者などの参加者には、アプリ操作説明会を複数回開催するなどサポート



目標達成状況見える化
歩数をランキング化



実際に投稿された写真
これまで**133枚**の投稿(3/6現在)
お気に入りの写真に♡をつけられる



老人会や町民向けに、アプリのダウンロード方法や
使い方を説明。相談会も実施(計9回)

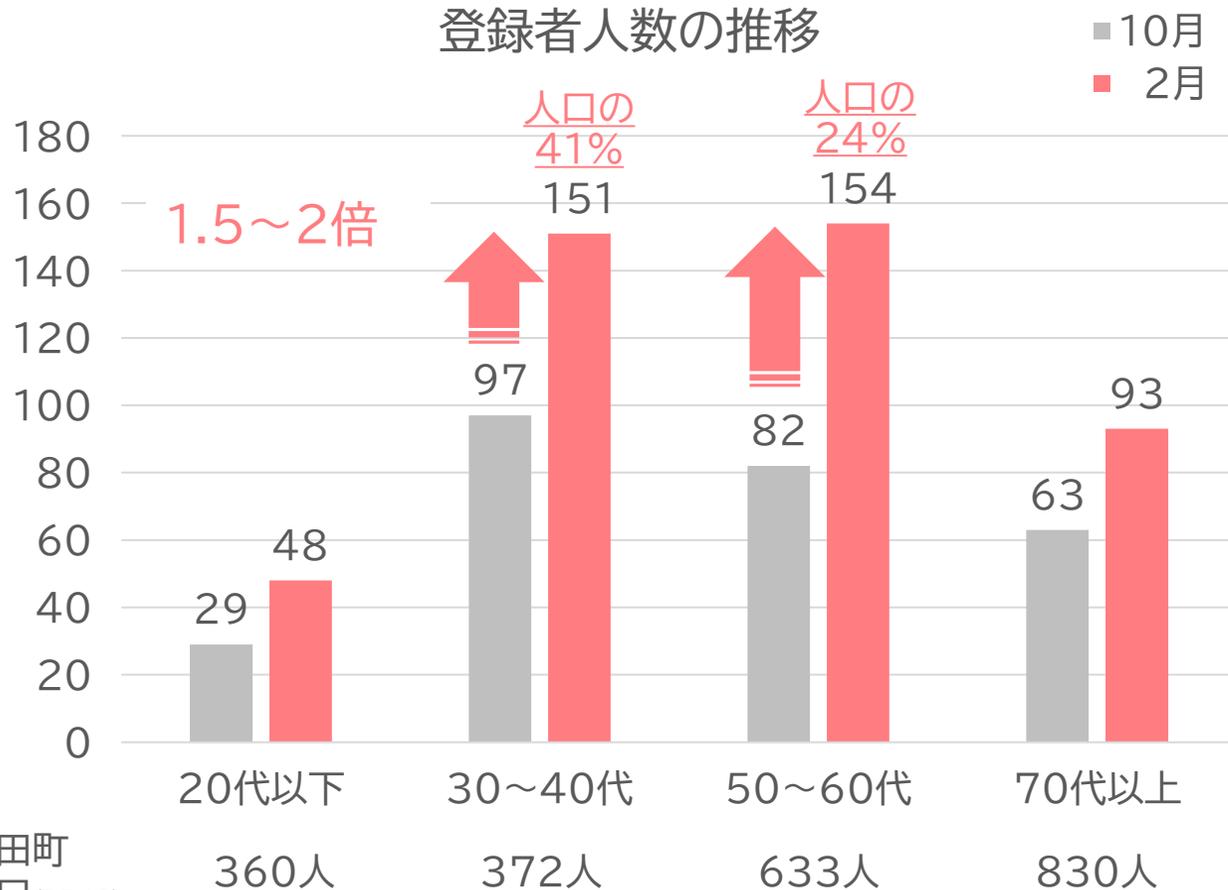
12 実証事業の成果 ①参加者の増加

○池田町人口の約2割に相当する446人が参加

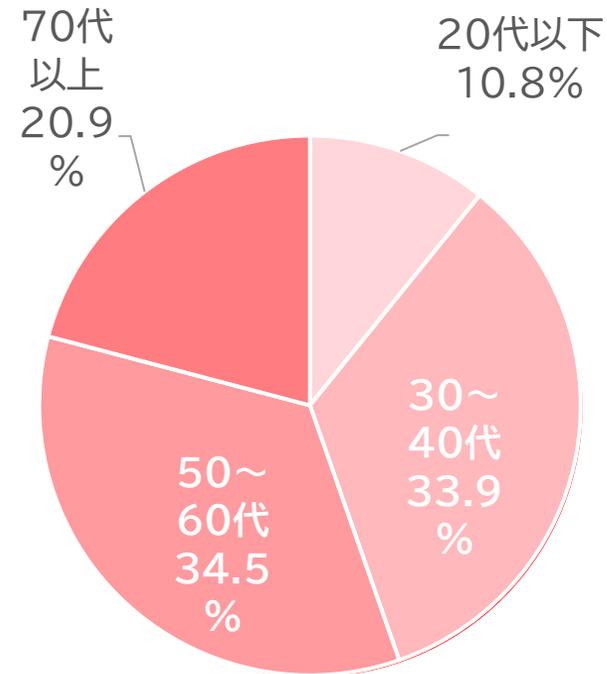
○実証開始後の11月以降、働き世代も数多く参加(全体の68%:登録者が1.5~2倍に増加)

→ これまでの健康づくりで、働きかけが十分できていなかった若い世代にもしっかりとアプローチできた

登録者人数の推移



登録者年代割合



30~60代が
参加者全体の68%

参加の動機

健康づくりに取り組みたい	70%
ポイントがもらいたい	60%
アプリの機能(目標管理・ランキング)	31%
家族友人知人と参加したい	22%

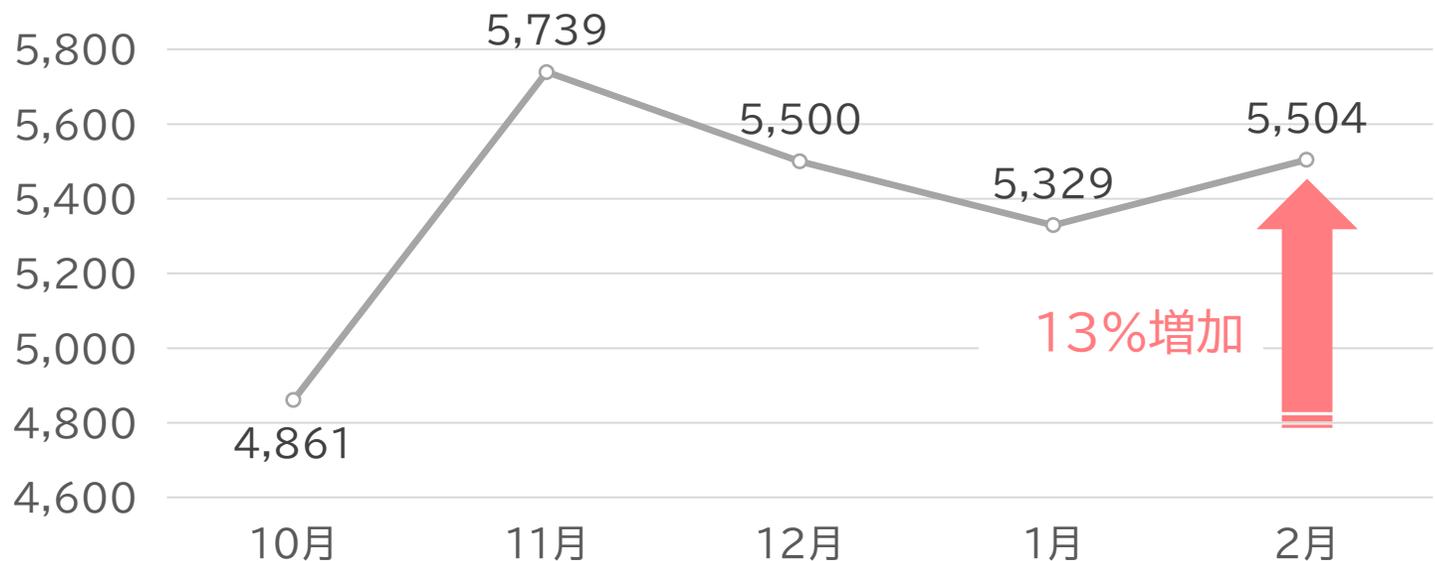
13 実証事業の成果 ②歩く量(歩数)も増加

○実証開始後の11月は900歩増加

○12～2月は、天候の悪い日も多かったが、目標の1日平均5,000歩をクリア

→実証開始後の歩数は増加。天候の悪い冬場も、室内で歩く等の工夫により目標歩数を維持

1日の平均歩数



・大学の研究にて雨の日は歩数が減るとの指摘
池田町の歩数データでも雨の日は減少傾向
ただ、冬場の特に雪の日で歩数増加が見られた

雨のみが降った日	雪が降った日
-155歩	+100歩

※ 直近1週間の平均歩数と当日の平均歩数の差分と気象データを基に算出

・天候の悪い冬場、町民が主体的に、
体育館など室内で歩く工夫をした。

老人会主催で、子どもたちと一緒に実施

・雪の日は、雪かきなどにより歩数が伸びたと推測

※カッコ内は、各月のそれぞれ雨、雪が降った日の割合
※雪が降った日のほとんどは、雨も降っており、重なっている

気象庁「過去の気象データ(武生観測地点(池田町最寄り))」

14 (参考)池田町広報誌での結果紹介

■ 平均歩数

① 月別：目標とした一日の平均歩数**5,000歩**達成しました！

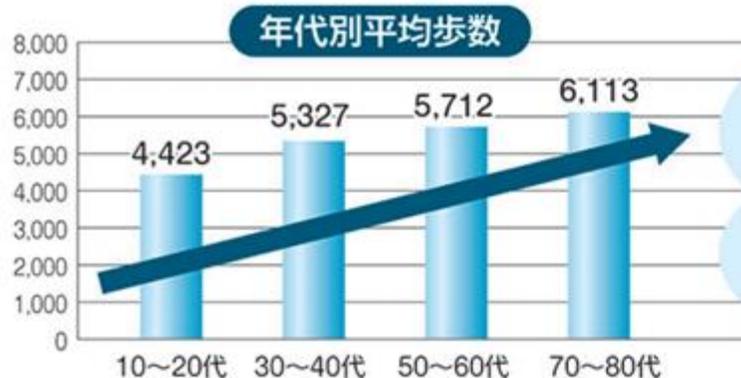


10月よりも1,000歩近く、平均歩数が増えています。

1日**1,000歩**(10分程度)増やすだけでも、様々な病気による**死亡リスクを減らす**ことができ、歩数が**5,000歩**(うち中強度の活動が7.5分)に達すると心筋梗塞や脳梗塞などの動脈硬化性疾患を著明に予防できます。



② 年代別 (R5.12月) 70~80代の方の平均歩数が6,113歩で年代別1位となっています。



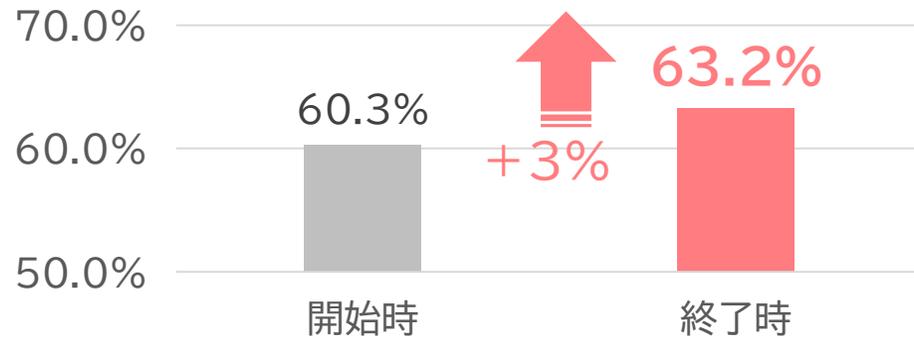
まずは一日**5,000歩**以上が大切です。
増えてきたら65歳以上は**6,000歩**、
64歳以下は**7,000~8,000歩**を目指るといいですね！



15 実証事業の成果 ③健康感・ウェルビーイングも向上

- 実証により、健康感、ウェルビーイング(幸せ実感)が向上
- また、世代間や町民・企業・団体間などで、新たなつながりが生まれたことが高く評価されている
→ 健康感やウェルビーイングを底上げ。デジタル活用によりアナログな関係づくりまで進展

健康感がよい人の割合
(よい+まあよい)



ウェルビーイング(幸せ実感)の平均点数



※開始時および終了時アンケートの両方に回答があった参加者を集計

(インタビュー)
若者と高齢者の間で、
毎日の歩数が話題に
なったり、新たなつな
がりがあった



健康ポイント実証事業参加者の約7割が満足(とても満足+どちらかと言えば満足)と回答



令和5年度 健康ポイント実証事業(県)

健康づくりを持続する
マインドの醸成

若い世代を含めた多くの
町民の健康づくりへの参画

- ・楽しく運動できるアプリの活用
- ・操作説明など高齢者サポート

- ・アナログな関係づくりの促進(歩こう運動会等)
- ・歩数や健康感等のデータの共有(広報誌等)

令和6年度～ 健康マイレージ事業

新たな仕組みやデータ連携で
健康づくりを次のステージに

- ・“町の未来のため”に取得ポイントを寄付し、地域貢献できることにより、更なるつながりの強化、幸福度向上を目指す(未来ポケット…未来応援寄付金)
- ・特定健診データとの連携を検討し、データを活用した一人ひとりに合った多様な健康づくりを推進

挑戦したい将来像

- 健幸で暮らし続けられる町
- ・健康寿命の延伸により行政負担(医療費・保険料等)を低減
- ・負担減少分をさらなる健康づくり事業の原資として、持続的可能な健康行政を展開

